仙台版コミュニティ・スクールについて

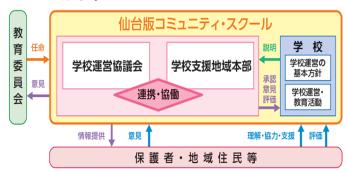
1 仙台版コミュニティ・スクールの状況

(1) コミュニティ・スクールとは

- ・保護者や地域住民が学校運営に参画できる学校運営協議会を設置した学校。
- ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律により制度化され平成29年の法改正により設 置が努力義務化されている。

(2) 仙台版コミュニティ・スクールの仕組み

・本市で進めてきた市民協働の取組を基盤とし、学校・家庭・地域が一体となって、地域 ぐるみで子どもを育てる「学校支援地域本部」や、学校・保護者・地域が共通の目標の もと、それぞれの立場で子どもを育むために取り組む「協働型学校評価」の取組を生か して設置。



校長が作成する学校運営の基本 方針を承認すること

法定 の役割

学校運営等について、教育委員 会又は学校に意見ができること

学校運営状況等について評価す

仙台独自 ること(協働型学校評価含む) → の役割

学校運営協議会の3つの機能

(3)目指す姿

学校・家庭・地域の三者が学校の基本方針や育成する子ども像などを共有し、双方向 に連携・協働することで、子どもたちの豊かな教育環境を創り出すとともに「学校を核 とした地域づくり」へつなげ、地域とともに歩む学校づくりを一層進めることを目指 す。

子どもにとっ

- 子どもたちの学びや体験活動 が充実する
- 自己肯定感や他人を思いやる 心が育つ
- ・ 地域の担い手としての自覚が 高まる
- 防犯・防災等の対策によって 安心・安全な生活ができる
- 地域の人々の理解と協力を得 た学校運営が実現する
- 地域人材に支えられ, 教育活 動が充実する
- 地域の協力により子どもと向 き合う時間の確保ができる

教職員にとって

魅力

保護者にとっ

- 学校や地域に対する理解が深 まる
- 地域で子どもたちが育てられ ているという安心感がある
- 保護者同士や地域の人々との 人間関係が構築できる
- 経験を生かすことで生きがい や自己有用感につながる
- 学校が社会的なつながりを得 られる場となり, 地域のより どころとなる
- 学校を中心とした地域ネット ワークが形成される
- 地域の防犯・防災体制の構築 ができる

地 域住民にと 0 て

(4) 年間スケジュール(例)

【第1回】

- ・任命書の交付・会長,副会長の選出
- 育成を目指す子ども像の確認
- 年間活動計画の作成
- 子どもたちの様子

【第3回】

- 授業参観 学校関係者評価(中間)
- 熟議について検討 「テーマ」「準備内容」

12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月

【第2回】

- ・1年間の総括・反省等
- 学校関係者評価(最終)
- ・ 次年度学校運営の基本方針の承認
- 学校支援の計画作成

【第4回】

- 授業参観 学校関係者評価(中間)
- 熟議 (案)

「目指す子ども像について」

(5) 学校運営協議会の設置・運営状況

① 導入経過

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(1月)	令和4年度(3月)
学校数	1 7	6 9	166	189
協議会数	1 2	5 2	1 3 0	1 5 1

[※]すべての市立学校・園が令和4年度中に導入予定

② 設置形態(令和5年3月)

	単独	1小1中	2小1中	3小1中	合計
協議会数	1 2 1	2 3	6	1	1 5 1

③ 仙台版コミュニティ・スクール導入校へのアンケート結果

実施:令和4年7月 対象:設置校校長(96校)

【「地域とともに歩む学校づくり」での有効性について】

- ・コミュニティ・スクールの「地域とともに歩む学校づくり」における有効性について約7割の校長が有効性を感じていると回答した。
- ・導入をきっかけに、コロナ禍により激減していた三者による活動の機会が得られた ことや、協議等を通じて三者が共に豊かな教育環境を目指すことの有効性が感じら ていることが伺える。
- ・CS 導入後の活動期間が長く、運営協議会の実施回数が多い学校で、導入後の変化を感じている傾向が見られる。

【自由記述より】

- ・家庭や地域の課題に対して、委員らが当事者意識を持って課題点の共有を図ること ができるため、解決に向けた様々な取組が期待できると感じている。
- ・学校を支えてくださっている地域の諸団体間の取組が共有され、今後連携の充実や 明確な役割分担が推進されるように感じている。
- ・共に協働し地域で子供を育てていこうという目的が明確になり、地域が今までより も一層自分事として子供たちの豊かな成長を考える機運は高まっている。
- ・協議会の存在自体が心強い。一緒に考えてくれる仲間がいることが有難い。

2 取組事例

(1) 導入1年目の取組

福室小学校学校運営協議会

- ・学校運営協議会委員と教職員による熟議(どんな子どもに育ってほしいか)を実施。
- ・目指す子どもの姿の共有と顔の見える関係づくりを進めた。



鶴谷東小学校学校運営協議会

・学校運営協議会において教職員と協議会委員で 協働型学校評価を実施。取組状況や達成状況を 踏まえた次年度の重点目標を設定した。





(2) 導入2年目以降の取組

生出小,中学校学校運営協議会

- ・学校と保護者・地域住民との熟議を経て、目標・ビジョンを共有。子どもたちがよりよく人とかかわる力を育む ことを目標にした取組を行うこととした。
- ・市民センター、社会学級と連携したコミュニティガーデンの運営や仙台自分づくり教育「子どものまち」を実施。

おきの学園学校運営協議会 沖野小・沖野東小・沖野中

- ・熟議をもとに、コミュニティ・スクールとしての取組の計画を作成した。
- ・取組計画に基づき、小中連携による3校の 教職員と学校運営協議会委員による合同委 員会で課題の共有と取組に対する意見交換 を行った。

短期的取組 中期的取組 長期的取組 主に 家庭の実情・親の心情を知るアンケート スマホ自粛期間を設定 家庭で カレンダーに表記 家庭生活改善のための取組 (朝食、手伝い、学習等) 主に 魅力ある授業づくり 学校で 地域人材を活用した授業 主に 学校・地域連携に ついての広報 地域で おきの地域フェス 自律心の育成の取組

愛子小学校学校運営協議会

- ・丁寧な土台づくりを進め愛子小「愛」を持つ組織を構成、目標は脱「学校任せ」と し、学校を地(域)から鼓舞「愛子のチカラコブ」を合言葉に活動。
- ・小学校の「あいさつ運動」を地域と 協働して「あいさつキャンペーン」と して実施。あいさつを一人にするごと シールが一枚もらえ、シールを貼って 季節に応じた掲示物に。コミュニティ スクールでの取組として定着している。







3 今後の取組

(1) 想定される課題

- ・「学校運営協議会」の役割の理解促進
- ・持続的かつ効果的な運営方法
- ・「学校支援地域本部」の関わり方

運営に関する伴走的な支援が必要

(2)課題への対応

- 事例等の収集
- ・好事例や成果・課題を周知するため、実態に応じた研修会・説明会を実施
- ・各校、運営協議会の実情に応じた支援
- ・各校の好事例を受け、運営していくうえで必要な内容をまとめた手引きを作成
- ・広く市民に意義や役割についての理解を図るため、フォーラム等を開催

(3) 充実期のイメージ

